

Alert 反天皇制運動 36号

【通巻418号】
2019年
6月4日発行

第X期・反天皇制運動連絡会

学習会報告	* 11	集会情報	* 12
野次馬日誌	* 9	集会の真相	* 10
反天日誌	* 11		
マスコミじかけの天皇制(35)		●新天皇の「公的行爲」なるものとの闘い	
「壊憲天皇制・象徴天皇教国家」批判①		天野恵一	* 8
太田昌国のみたび夢は夜ひらく(108)		●文化財返還と、終わることなき植民地問題	太田昌国 * 7
状況批評	●天皇代替りで消せない強制動員慰謝料請求権	竹内康人	* 4
ネットワーク	●オリンピックを過去のものに	一年前でもやっぱり返上!	
	「お・こ・と・わ・り」WEEKに世界中の仲間がやってくる		
	きょうごくのりこ		* 6
反天ジャーナル	●丸田弘篤、映女、桃色鰐		* 3
今月のAlert	●新天皇の政治とどう対決するか?		
	「徹底検証! ナルヒト天皇制」集会へ!		* 2

2019年5月、高等教育、幼児教育の「無償化」と称される2つの法律が成立した。この2法には、これまで補助金の対象となっていなかった個人立・宗教法人立幼稚園、専修学校等を救済しようという意図が表れている。

内容は貧弱なもので、高等教育「無償化」の対象となる学生は「住民税非課税世帯の学生」であり、彼らに授業料等減免・給付型奨学金を「支援」というものである。しかし、この制度の適用大学となろうとするなら、大学は次のことが求められる。

- ①実務経験のある教員による授業科目が標準単位数の1割以上。
- ②法人の「理事」に産業界等の外部人材を複数任命。
- ③授業計画(シラバス)の作成、GPAなどの成績評価の客観的指標の設定、厳格かつ適正な成績管理。
- ④法令に則り、貸借対照表、損益計算書その他の財務諸表等の情報や、定員充足状況や進学・就職の状況などの教育活動に係る情報を開示。

財務の公開(しかもこれまで以上のことを求めるのではない)はともかく、大学の教育に「実務」者・産業界の要求を反映させろとの意図が明らかである。しかも、施行は消費税率引き上げ後とされる一方で、大学が上記の対象大学であるかの「確認」は、7月中旬に申請しなければならない。消費税率引き上げがなされなければ、「無償化」は実施されない中で、大学は申請の対応のために、「実務」教員を入れ、外部理事を導入している状況となっている。

幼児教育「無償化」では、高額所得者ほど恩恵を受けることになる。また、多くの外国人学校が幼児クラスを併設しているが、外国人学校幼稚部等は制度から除外されている。

そもそも、「教育」が金儲けの道具となっている現状がおかしいのである。真の教育の「無償化」を。(ぐずら)



250 円

●定期購読をお願いします(送料共年間4000円)

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス

TEL / FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net

今月の

Alert

新天皇の政治とどう対決するか？ 「徹底検証！ナルヒト天皇制」集会へ！



新天皇・新皇后の「代替わり」からひと月。徳仁天皇制の「個性」は、思いの外スムーズに打ち出されているようである。明仁のような権威性は、もちろんまだ備わってはいないようだ。だが、その若さ（父親に比べて）と相まって、「気さくな人柄」と言った「軽さ」を強調することで、親密性をアピールする方向も模索されているようにもみえる。不安視されていた雅子の病も、「代替わり」儀式と先日のトランプ会見を、満面の笑みでそつなくこなしたとされることで吹き飛んでしまったかのように論じられている。トランプ夫妻との会話は英語で通した。やっぱり雅子の本領はこれだ。

二七日、徳仁・雅子は、皇居宮殿で歓迎行事を行ったあとトランプと会見。夜の宮中晩餐会で徳仁は、「日米和親条約以来」の相互理解と信頼を育み、「今や太平洋を隔てて接する極めて親しい隣国として、強い友情の絆で結ばれております」と述べた。日米戦争もすでに乗り越えられた「様々な困難」のひとつにすぎない。そして「日米両国が困難な時に互いに助け合える関係にある」として、「トモダチ作戦」にも言及した。さらにこうした日米関係重視は、明仁が「天皇として御在位中、平和を心から願われ、上皇后陛下と御一緒に、戦争の犠牲者の慰霊を続けられるとともに、国際親善に努められました。今日の日米関係が、多くの人々

の犠牲と献身的な努力の上に築かれていることを常に胸に刻みつつ、両国の国民が、これからも協力の幅を一層広げながら、揺るぎない絆を更に深め、希望にあふれる将来に向けて、世界の平和と繁栄に貢献していくことを切に願っております」という文脈の中に位置づけられる。

「令和初の国賓」となるのは中国の習近平であるという話もあったようだが、G20を前にしてわざわざトランプを招くにあたっては、「新しい時代」においても中国ではなくアメリカとの関係こそが日本にとって基軸なのだということを「国民」的に確認するため必要だったということだろう。徳仁は、そういう中で期待された政治的役割を、「元首」然とした態度で、明確にこなしたのである。

一方、秋の「即位・大嘗祭」に向けた儀式も着々と進んでいる。五月八日に行われた「皇霊殿神殿・賢所への」期日奉告の儀や、「（神武天皇陵などへの）勅使発遣の儀」などの儀式はニュース映像などでも流された。そこで映し出された徳仁の姿は、やはり「伝統的」装いに満ちたものであった。一日には「大嘗祭」儀式で使う米の産地を決める「斎田点定の儀」も行われ、ウミガメの甲羅を使った亀卜によって「悠紀田」が栃木に、「主基田」が京都に決められた。当然のことだが、これら世俗性／神聖性

の双方に足場を持つ天皇制のありかたは、徳仁天皇への「代替わり」においても、いささかも変わるものではない。さらに、衆参両院や地方議会にまで広がるようにしている新天皇即位への全会一致の「賀詞奉呈」の動きなど、挙国一致の愚かしい天皇空間の広がり、排除と包摂という機制に変化はない。しかしその上で、われわれは、徳仁天皇の「独自性」がいかなる方向で演出されていくかということについても、注目しないわけにはいかない。女性宮家問題ひとつとってもそうだが、天皇制の位置づけをめぐる権力内諸分派の対抗関係は、徳仁天皇制をどう演出するかということに関わって現れるのだ。

私たちも呼びかけ団体のひとつになっている、「終わりにしよう天皇制『代替わり』反対ネットワーク」（おわてんねっと）では、七月一五日に、「徹底検証！ナルヒト天皇制」という集会を持って、この問題に切り込んでいきたいと考えている。集会では「代替わり」奉祝報道、女性・女系天皇問題、明仁天皇制が「達成」したこと、戦争と天皇制、徳仁と「水問題」政党的動向……などといったテーマから考えていきたいと考えている（二時一五分開場、於：文京区民センター）。ぜひ多くの方の結集を。そして夏から秋に向けての闘いを準備しよう！

（北野誓）

燃えなかった天皇代替わり

「天皇制と資本主義」という馬鹿でかい通信ターマを掲げたらメンバーから引かれたけど、ざっくりこんなことなんじゃないか。

5月1日メーデー、フリーターユニオンは少数でも福岡の中心天神で街頭行動。町中や会社の前には「祝 令和」とかいう幟を立ててある。そのこと自体が、「元号こそ日本の伝統」とか確固たる信念のもとになされているのであれば、自らの思想信条のもと異議申立の意味もある。だが、今回イマイチ、そこまで掻き立てられないのは、結局それが、信念に基づくともいえないような「ミハー」的なもの、単に消費文化に流されてのことであることがあまりにも透けて見えすぎて、力が入らない。幟を上げることに對する思想的な意味が全く見えないからこそ、「幟に火を点ける」までの意思表示をして問題提起をする気になれなかった。思わず百田ライターを握り締めたが（笑）

今、介護現場でミクロレベルの職場闘争を積み上げているところであり、元号に對する抵抗をそこでやっている。派手さはないが、気が付いたら元号表記の書類がほとんど存在しなくなっている状況が来ているのも、それはそれでありなのではないかと思う。

（丸田弘篤／FUF）

産む産まないは国が決める？

「不良な子孫の出生防止」を目的とした旧優生保護法の下、知的障害を理由に不妊手術を強いられたのは違法だとして、2人の女性が国に損害賠償を求めた裁判で仙台地裁は、旧法は憲法13条（個人の尊重や幸福追求権）に違反するとの判決を出しました。しかし、賠償は認めませんでした。ひどい判決です。

旧法の下、知的障害や精神病者に對して時に強制的に手術は行われ、約2万5千人が手術を受けました。強制は約1万5千人。

4月、被害者に對して一時金を出す支給法が成立しました。その額は32万円！

判決は、子を産み、育てるかどうかを決める権利を「幸福の源泉」と位置づけました。

しかし、桜田前五輪相は子どもを最低3人は産むようにと5月29日発言。戦争中の「産めよ殖やせよ」政策はなお健在です。何しろ「女は産む機械」と発言した厚生大臣もいたほどですから。

他方、雅子皇后は、結婚以来男の跡継ぎを産むことを強制され、跡継ぎを産むまでは外国訪問はだめと、国内に留め置かれました。「雅子のキャリアや人格を否定するような動きがあった」（現天皇発言、04年）。

産む産まないは女（わたし）が決める、女性の権利は日本にはないの？

（映女）

性暴力を絶対許さないぞ！

安倍靖国違憲訴訟の安倍忖度判決は記憶に新しいが、原発や基地関連等も言わずもがな、もはや司法の独立は望むべくもないのかと嘆きたくなるほど悲惨な状況だ。そんな司法に腹立たしい思いをすることは多々ある。それでもこの間の性暴力事件の相次ぐ無罪判決には、驚きを隠せない。なぜこのような理不尽な判決が下されるのか。

拒否すれば殴る蹴るの暴行が繰り返され、抵抗しがたい心理状態だったと認められても、「抗拒不能」を立証しなければならぬという。抵抗が不可能だった証明をしなければレイプが犯罪と認められないというのだ。

幼い頃から長期に渡って、父親の性的虐待が続いても、泥酔させられ抵抗しても、相手に抵抗していることが伝わらなければ加害者は無罪。その判断は裁判官に委ねられている。

裁判官に被害者がどういう状態に陥るかなど、医学的、心理学的に教える研修を徹底するように要望書が出されたという。

「女を買いたい」などどこんでもない暴言の丸山議員をはじめ、個人の「性」を侵害するような卑劣な発言をする議員が後を絶たない。「嫌よ嫌よも好きになうち」的な勝手な視点で判断していませんか？ 判決理由はそう読めちゃう。

（桃色鰐）

状況批評

思想・状況・批評

天皇代替りで消せない強制動員慰謝料請求権

竹内康人（歴史研究）

■強制動員慰謝料請求権の確定

二〇一八年一〇月三〇日、韓国大法院は強制動員された元日本製鉄徴用工への損害賠償を命じた。大法院は強制動員を、日本の植民地支配や侵略戦争の遂行に直結した日本企業の反人道的不法行為とし、強制動員被害者の慰謝料請求権を認め、確定させたのである。この権利は、強制動員慰謝料請求権と略される。さらに十一月二十九日、大法院は三菱広島製の元徴用工、三菱名古屋製の元女子勤労挺身隊員についても同様の判決をくだした。

判決では、被害者の請求権を未払賃金の請求権ではなく、不法な強制動員被害への慰謝料請求権であるとした。日韓請求権協定については両国の民事的な債権債務関係を解決するものとし、不法行為に対する請求権は日韓請求権協定の適用対象には含まれないとした。

判決は、強制動員被害者個人の強制動員企業に対する賠償請求権を認め、強制動員企業の法的責任を明示した。また、日韓請求権協定（一九六五年体制）では、不法行為としての強制動員への賠償が未解決であることを示すものだった。それは、被害の尊厳回復を求めて活動してきた人びとの行動を正義とするものであり、画期的な判決だった。

■日本政府の対応の問題点

日本製鉄元徴用工判決直後の十一月一日、安倍首相は衆議院予算委員会で、日鉄裁判の原告四名はいずれも募集に応じたとし、元徴用工を「旧朝鮮半島出身労働者」と言い換えた。また、一九六五年の日韓請求権協定によって、完全かつ最終的に解決し、判決は国際法に照らせば、ありえない判断とみなし、国際裁判も含めあらゆる選択肢も視野に入れて毅然として対応すると発言した。

だが、十一月十四日の衆議院外務委員会の質疑で外務省は、請求権協定では個人の請求権は消滅せず、請求権協定上での財産、権利及び利益とは財産的価値を認め

られる全ての種類の実体的権利であり、慰謝料等の請求は財産的権利に該当しないことを認めた。質疑では被害者個人の慰謝料請求権が日韓請求権協定には含まれないことが明らかにされたのである。韓国大法院判決は、ありえる判断なのである。安倍首相は「旧朝鮮半島出身労働者」としたが、一九四三年末の軍需会社法によって翌年一月に日本製鉄も軍需会社に指定された。そのため日本製鉄に動員された朝鮮人は現場で軍需徴用された。かれらは徴用工である。

■韓国併合不法論への反発

『でっちあげの徴用工問題』（西岡力）は、強制動員慰謝料請求権の確定に反発して記されたものであり、主な主張は以下である。

大法院判決には日本統治を当初から不法とする奇怪な観念（日本統治不法論）がある。朝鮮人戦時労働者は合法であり、強制連行や奴隷労働ではなかった。日本統治不法論によって反人道的不法行為に化ける。これを認めたら、日本統治時代のあらゆる政策が不法とされ、無限の慰謝料請求がなされかねない。日韓関係の根本を揺るがす危険な論理である。

日韓請求権協定により、請求権に関しては今後いかなる主張もなしえないとされた。日本からの経済協力金で韓国は高度成長した。韓国の民官共同委員会（二〇〇五年）は、三億ドルの経済協力金に強制動員被害補償解決の性格の資金等が包括的に勘案されているとし、韓国政府は個人補償もした。

日本企業がこの不当判決を認めず、原告との協議に応じないという毅然たる姿勢を貫けば、困るのは韓国の原告と支援者である。かれらは巨額の基金を持つ財団をつくり、原告以外にも補償しようとしている。企業を守る体制を官民挙げて作る必要がある。

韓国併合一〇〇年日韓知識人共同声明をすすめ、日本統治不法論を提供し、裁判を支援した日本人がいたが、それが日韓関係を悪化させた。戦時動員は強制連行で

はない、戦後補償は請求権協定で終わっているという国際広報を官民が協力しておこなうべきである。

このように、植民地支配も労務動員も合法であり、日韓請求権協定で解決済みである、企業は判決に応じるな、国際的に広報して対抗しようと主張している。

■「でっちあげ」の強制連行否定

この本では、統計や証言から、朝鮮人は内地で働きたがっていたのであり、無理やり連行したのではない、かれらは統制に従わず、逃亡し、勝手に就労したとし、強制連行や奴隷労働はなかったとする。たとえば証言の分析では、鄭忠海『朝鮮人徴用工の手記』をあげ、東洋工業に徴用されたが、高給であり、衣食住もよく、逢引もできたとし、強制連行や奴隷労働ではなかった事例としている。だが、鄭氏の手記には次のように記されている。

「動員される釜山港」「今の我々の姿は何かの映画で見た、奴隷市場で売買される奴隷の姿に似ている」。「玄界灘」「よその国家と民族のため強制的に動員されていく身の上、弱小民族の悲哀」。「東洋工業」「強制的に引つ張られて来た人々が大部分ではないか」「徴用というよからめ名目で動員されてきて、作業服をまとい奴隷のような扱いを受けていても、故国では優れた紳士たちだ」。「原爆投下後」「多くの不幸な人々の中には、強制的に連れてこられて彼らの手足になつて血の汗を流し、苦役をして不幸にも死んでいく、凄惨な負傷を負った我々の同胞たちがどれほどいるのだろうか」。「帰国」「日本に強制的に連れて行かれ、苦役に従事した我々同胞が続々帰国している」。

このように手記には、徴用により強制的に連れてこられ、奴隷のように苦役に従事したと記されている。その記述を無視し、鄭氏の記録を強制連行や奴隷労働を否定する材料としている。統計分析では、官斡旋や徴用が「かなり強制力の強い動員」であったことを認めながら、逃亡が多く動員は失敗したから、強制連行はなかったとする。

本の最後には「事実に基づかない議論は百害あって一利なし」と結論が記されているが、その指摘はこの本の鄭氏の手記分析にあてはまるものだ。強制連行否定のための歪曲、「でっちあげ」である。

■隠蔽された朝鮮人撲殺事件

強制労働の実態を知るために、北海道炭礦汽船の資料から事件をひとつ紹介して

おこつ。

一九四四年五月、北炭の平和炭鉱真谷地坑から朝鮮人岩城在祥、岩城恵鎬、金本仙徳の三人が逃亡した。三人は一九四三年九月に慶尚南道梁山郡から連行された。発見されて格闘になり、岩城在祥（二二歳）は棒切れで前額を殴られ、病院で死亡した。金本仙徳は捕えられ、岩城恵鎬は逃げた。

北炭は死因を秘匿し、国元へは逃走中に山中で負傷し、加療中に心臓麻痺を併発したと伝えた。捕らえた金本は口封じのため、警察に留置、機会を見て北方へと送ることにした。照会があった際、警察には同一歩調を取るよう連絡した。

動員された朝鮮人の名簿には、岩城在龍、岩城眞鎬、金本千徳と記され、ともに梁山郡熊上面出身である。岩城在龍の遺族は事実を知っているのだろうか。岩城眞鎬と金本千徳はその後、どう生きたのか。三人の記録は日本に連行された八〇万人に及ぶ人びとの歴史の一端である。動員された側からの歴史が大切である。

■植民地責任をとり、東アジアの平和を

国際法の解釈は人権中心となり、戦争被害者の尊厳の回復は大きな課題となった。条約や協定が尊厳の回復、正義の実現の妨げになっているならば、それを超える道を考えることが重要とされる。今回の大法院判決はこのような国際法理解の流れのなかで生まれた。強制動員慰謝料請求権の確定を人類史の成果として評価すべきである。それは日韓の友好やその基盤を破壊するものではない。日韓の新しい友好関係は日本が植民地支配の責任をとることからはじまる。過去を清算すること、強制動員問題をはじめ植民地責任をとろうとする真摯な取り組みが、信頼を生み、北東アジアの平和と人権への構築につながる。

戦時の強制労働については、すでに日本の裁判で日本製鉄や三菱重工業での強制労働の事実を認定している。国際的には一九九九年に強制労働を禁止するILO二九号条約違反が認定されている。しかし日本政府は、植民地支配の不法性を認めず、戦時の朝鮮人強制労働の事実についても認めてこなかった。それを認知するときである。関係する日本企業も強制労働の事実を認知し、賠償に応じ、被害者との和解をすすめるべきである。日韓政府とともに包括的解決にむけて、共同で財団を設立し、賠償基金を設立することも求められる。

天皇代替りで新時代が来たかのような宣伝がなされている。だが、元号を変えても時代は変わらない。過去を清算し、新たな人権と平和の枠組みを提示することが、時代を変える。強制動員慰謝料請求権の確定は、その好機である。

なんざー NETWORK

オリンピックを過去のものに 一年前でもやっぱり返上！ 「お・こ・と・わ・り」WEEKに世界中の仲間がやってくる

きょうごくのりこ「オリンピック災害」おこわり連絡会)

二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックまで一年に迫った。来年、灼熱地獄の東京でほんとうにオリンピックを開催するのか？ 私たちは、七月、改めて東京オリ・パラの返上・中止を求めたい。

★昨年末、フランス司法当局が東京五輪招致の贈収賄容疑でJOC竹田会長に対する捜査を再開、訴追の可能性がある。以前からの疑惑だが正式な捜査開始を受け会長辞任に追い込まれた。6月末の任期満了退任の形をとり、ことをあいまいにするJOCだが、その責任は免れない。買収には東京大会のマーケティングを牛耳る電通が深く関わっており、招致そのものの正当性が崩れる。安倍首相の「アンダーコントロール」発言もあり、金まみれ、嘘だらけの五輪招致だ。いまさらでも撤回し、真相究明が必要だと思う。リオ五輪（二〇一六）でも招致に関わる汚職で、翌年ブラジル・オリンピック委員会会長が逮捕された。IOCも巻き込んだ賄賂合戦、もういい加減にしてくれと言う話。始まる前がせめてもの救い、今なら間に合う返上しよう。

★開催費用も当初の七三〇〇億円が膨れに膨れて三兆円を超すとも。莫大な公的資金が投入され、自治体には借金が残る。深刻な状況は、すでに開催された国——大統領の弾劾に繋がったリオを見

よ！——や札幌（一九七二）、長野（一九九八）で証明済みだ。競技場建設や開発による住民排除などの生存権侵害、労災多発の過酷な労働現場、環境破壊、財政赤字による住民生活へのしわ寄せ等どれも半端ない。

一方で、オリンピックに群がり巨額の利益を得る人たちももちろんいる。晴海の都有地に建つ選手村は、開催後改修して「HARUMI FLAG」という超高級マンション街に変貌するが、周辺地価の一分の一で三井不動産などに払い下げられる。招致疑惑の立役者「電通」が五輪で巨額の収入を得ることも周知の事実だ。

多くの都市が民衆の反対で五輪招致の場からの退場を余儀なくされている。二〇一七年九月、IOCは二〇二四年パリと二〇二八年ロス開催を同時決定、異例の事態になった。いまや開催立候補の熱は冷め、五輪返上は世界のトレンドなのだ。

★日本はどうよ。おこわりリンクでは、この間、「治安強化」「ボランティア・動員」「復興五輪」「ジェンダー」「パラリンピック批判」「会場建設現場の労働問題」などのテーマを掘り下げ運動を広げてきた。「復興」や「ボランティア」批判のリーフも作ったのでぜひ読んでほしい。またある日、渋谷の雑踏に「東」「京」「五」「輪」「反」「対」の巨大プラカが突如登場。このパフォーマンスは別の

ところでもやりたい。竹田疑惑については公開質問状をJOC等へ送付、次の手を考え中だ……、etc.

で、七月だが、開会式予定日の「7・24」(*)を含む一週間、シンポジウムやデモなど様々な組を企画中(*). 一年前ということでメディア、ジャーナリスト、アクティビストが「TOKYO」に注目、海外からも多数来日予定だ。元プロサッカー選手で、バルセロナ五輪に参加したこともある政治学者でスポーツジャーナリストのジュールズ・ポイコフも来日する(*). 「祝賀資本主義」の観点で五輪批判を展開する。お祭り騒ぎでオリンピックに興じている間に原発事故の真実が覆い隠され、テロ対策としての共謀罪や監視システム、軍事力強化等進む「TOKYO」——復興五輪の正体が暴露されるだろう。ポイコフだけでなく、ロスやソウル、パリなどからオリンピック反対のアクティビストたちがやってくる。「反五輪の会」の仲間たちとの共同シンポなども準備されていて楽しみ。オリンピックを終わらせるために何が必要か、いっしょに考えてみたいと思う。

今年は天皇代替わりの年だ。うんざりする騒ぎは始まったばかりで、五輪開会式での開会宣言は徳仁天皇になる。世界に向けてのお披露目の場として、彼らはオリンピックを選んだ。まさに「祝賀資本主義」。ふざけた目論見を粉砕するために、もやっぱり五輪返上！ 灼熱五輪はコメンだ。

*オリンピック大炎上新宿デモ 7月24日(水) 18時
新宿アルタ前

*その他、詳細はおこわりリンクのwebサイトで。
www.2020okotowa.link

*ジュールズ・ポイコフ「オリンピック秘史」
二〇一八年早川書房

みたび

太田昌国の夢は夜ひらく 108

文化財返還と、終わることなき植民地問題



多面的な視点を失い一元化された情報で埋め尽くされた日の新聞を読むのは辛い。そんなことが、とみに多くなった。もちろん、テレビニュースは論外だ。そうなるときのテーマははっきりしている――天皇制、対米関係、近隣諸地域との間で継続している植民地支配をめぐる問題などだ。いずれも、深く考え、正面から向き合って論議し、解決のための歴史的かつ現実的な手立てを取ることを、社会全体として怠ってきた問題だ。その結果が、「二〇一九年という現在」のあちらこちらにまぎれもなく表れている。ツケは大きいものだと思ってしまうが、時すでに遅し、の感がしないではない。

そんな日はできるだけ小さな記事を探す。大文字で埋め尽くされた新聞の一面や政治面はほぼ読むに堪えないからだ。最近では、五月中旬、ドイツが植民地支配への反省を強調し、ナミビアへ石柱を返還するという「ベルリンII時事」の小さな報道が胸に残った。石柱は高さ3.5メートル、重さ1トンで、ナミビアが持つ海岸線のどこかに建てられていたが、ドイツ統治下の一九九三年に持ち去られたという。そして、欧米諸国や日本のようにに植民地主義を実践した国ではそうであるように、この「略奪美術品」は旧宗主国の首都の歴史博物館に麗々しく飾られていたのである。独文化・

メディア相は返還を発表した記者会見の場で、「植民地支配は、過去と向き合う中で盲点になってきた」と語ったという。

個人的にはナミビアを含めた南部アフリカに深い思いがある。一九八〇年代後半から九〇年代初頭にかけて、南部アフリカ地域に続く人種差別体制の歴史と現実に迫るために「反アパルトヘイト国際美術展」に関わり、同時に「差別と叛逆の原点を知る」一連の書物を企画・刊行した。一九九四年にはアパルトヘイト体制が撤廃されるという現実の動きを伴ったこともあって、忘れ難い記憶だ。なかに『私たちのナミビア』（現代企画室、一九九〇年）という書物があった。独立解放闘争をたたかうナミビアの人びとと、植民地支配の歴史を自己批判したドイツ人とが協働企画として実現した社会科テキストである。戦後史の中で「教科書問題」が常に争点になってきている日本の現実を思うとき、示唆に満ちた本である。

二〇一八年八月には、独政府がナミビアを植民地支配していた一八八四から一九一五年にかけて、優生学上の資料として持ち帰った先住民一九人分の頭蓋骨などをナミビア政府に返還したという報道もあった。だが、持ち去られた頭部は数千体に及ぶとする説もある。それは、一九〇四〜〇八年

にかけてドイツ領南西アフリカ（ナミビアは当時こう称されていた）で植民地政府の暴政に対し蜂起したヘレロ人とナマ人が虐殺された出来事と深く関わっている。上記教科書によれば、ヘレロ人の80%、ナマ人の50%に当たる総計七万五千人が犠牲となった。その頭部が持ち去られたというのである。

その後のドイツの二〇世紀前半の歩みを私たちは知っている。第一次大戦で敗北したドイツは海外植民地の多くを失うが、ドイツ軍守備隊がアフリカ植民地で使用していた褐色の軍服をナチ党が買い入れて突撃隊（SA）の制服にしたこと、SAは一九二〇年にバイエルン評議会共和国を押し潰した反革命軍勢力の内部からこそ生まれたが、その指揮を執ったのは、ナミビアの植民地叛乱鎮圧の手腕を認められたフランチ・フォン・エツプ將軍であったこと。そして、優生学研究が行き着いた地点も……。過去の植民地叛乱鎮圧と現代史との接点が、生々しくも見えてくるのである。

日本の遺骨返還問題をここで思い出さざるを得ない。一九三〇年代、北大らの学者は、北海道各地・サハリン（樺太）・千島列島にあったアイヌ墓地から、人種特定のために遺骨を掘り出した。同じことは、同じ時期の琉球諸島でも行われた。返還訴訟を二〇一二年に始めたアイヌの場合は、一定の「成果」をみている。琉球の場合は、遺骨を保存している京大が調査と返還を拒否したために係争中である。加害者側がしるべき言動を行わない限り、植民地支配問題に「終わり」（＝真の解決）の時は来ないと知るべきだろう。（5月31日記）

ミミ
じけの
天皇制

35

新天皇の「公的行為」なるものとの闘い

——〈壊憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判①



天 野 恵 一

とんでもないハードなスケジュールの中を、病身で、不安を抱えながら、なんとか動ききれた。今、本場に「瞬ホツ」としている。ここでは、その行動記録をメモしておかなければなるまい。

五月一八・一九日は、大阪で「再稼働阻止全国ネットワーク」の「第23回全国相談会」。毎回、全国の新発立地での闘いの貴重な報告が大量になされ、討論すべきことが多すぎて、私は毎度アタフタの司会者であるが、今回は、かなりスッキリと論議が整理され、重要な問題が結論に向かって深められた。そして、東京側が提起した現下の大問題は四月二四日の「原子力規制委員会」の「特定事故等諸施設」づくりの期限延長を認めないという決定の持つ意味。政府や「規制委」はそれをもっぱら「テロ対策施設」と説明し、これの設置は新規基準で義務づけた。期限延長を認め、それなしでも再稼働をパスさせてきた。今回は五年の延長期間をさらに延長はせず、再稼働している原発も五年延長期間で、それがつくられなければ、すべてストップさせるという方針。電力会社のいいなりに近い「規制委」とは思えない決定。これは何故。この状況を原発運動がどう活用するののか。

五月二一日は名古屋の「なにが問題植樹祭」——新天皇の初の「公的行為」集会で話した。私は実は「初の公的行為」は、アメリカ大統領トラン

プとの会談、これの方が先になるだろうからという話から始め、一九五〇年の第一回国土緑化大会（天皇夫妻出席）からスタート、一九六〇年に「全国植樹祭」と改名したこの自然保護の大切さをアピールする天皇行事は、会場づくりで自然をメチャクチャに破壊（ハゲ山づくり）で有名な行事であることを自分が参加した抗議行動（42回福岡など）の体験をふまえてレポート（名古屋でも、すでに自然破壊の会場づくりはなされている事実は、現地の人がスライドつきで説明していた）。植樹祭同様の天皇の全国めぐりの行事「国民体育大会」と「豊かな海づくり大会」についてもふれ、私は、千葉で行われた「第12回」の「海づくり大会」に抗議し、わずか一分間の天皇の「稚魚放流行事」のための仮設栈橋の建設に九三〇万円支出した千葉県（知事）への返済請求裁判（住民訴訟）までおこし、この違憲の「公的行為」と闘い続けた大島孝一の言葉を紹介した。

「『象徴としての公的行為』論で、ここまで大きな天皇制になってしまっている」。

私たちの反天皇制運動は、アキヒトの代になってからは、もっぱら様々な「公的行為」なるものとの具体的な闘いの蓄積であった。新天皇の先代をたたえた即位宣言は、自分もこの壊憲（強化）コースを走るといふ宣言である。これとの闘いをこそ

持続しようと、最後に私は呼びかけて、話を終えた。東京へ帰って五月二五日は「オリンピック災害」おこわり連絡会の「オリンピックと放射能——『復興五輪』という欺瞞」の集会。私は主催者の一人として、東京五輪へ向けて政府によって「テロ対策」が公然と叫ばれたし、「代替わり」警備もハードになっている今、原発をストップさせても「原発テロ対策」という姿勢を政府が示しだしている状況について、討論の中で発言。当然にも、これを原発を止めるチャンスとして活用しようと動く原発運動と、反五輪運動が対立しない土俵を、うまくつくて共闘する必要を訴えた。

五月二六日は「終わりにしよう天皇制！『代替わり』反対ネットワーク」主催の「新天皇・トラップ会談」反対新宿デモへ。

結集場所・新宿東口アルタ前広場は、天皇主義右翼がウウウ出てきて、暴力的に介入。「日本から出ていけ！」の大コール。なんとかハネのけて、新天皇最初の公然たる違憲行為（「公的行為」）である日米軍事（安保）同盟強化のための「皇室外交」に批判の声をたたきつけるデモを貫徹（今まで反原発運動でのみ会っていた知人が何人も参加していた）。

「公的行為」の拡大による象徴天皇制の強化という政治意思は、旧天皇から新天皇に確実にリレーされている。この点を、私は雅子新皇后の久々の外交舞台でハシャいでいる姿をも見ながら、確信した。

皇太子日記

5月1日～5月30日

【5月1日】

天皇、皇族◆徳仁が、皇居・宮殿「松の間」で「即位後朝見の儀」。「憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としての責務を果たす」「自己の研鑽に励むとともに、常に国民を思い、国民に寄り添う」これに先立ち、松の間での「剣璽等承継の儀」。安倍首相や閣僚らが参列。前例に倣って女性皇族は同席せず。両儀式に先立ち徳仁が、「国事行為」として行つと裁可。午後、宮殿などで祝賀行事が催される。／両儀式後、宮内庁の侍従長と上皇侍従長の認証官任命式、「剣璽」とともに車で赤坂御所へ戻る。／政府が臨時閣議で、明仁退位、徳仁の皇位継承を「国民に知らせるための内閣告示を決定。／徳仁が勲章親授式や宮中晩さん会などに出席する際、身に着ける勲章「大勲位菊花章頸飾」「桐花大綬章」「文化勲章」の三つを贈呈を政府決定。

【5月4日】

天皇、皇族◆徳仁の即位に伴う一般参賀14万1300人が訪れる。

【5月5日】

明仁、美智子◆東京都港区の「東京オリンピックスクラフ」を訪問。

【5月8日】

天皇、皇族◆徳仁が皇居・宮中三殿で、即位関連儀式を秋に執り行うことを歴代天皇などに報告する「期日奉告の儀」。「三種の神器」のうち、剣と璽（勾玉）を侍従が携えて随行。伊勢神宮（三重県伊勢市）などに使者「勅使」を派遣する「勅使発遣の儀」に臨む。

【5月9日】

即位賀詞◆衆院の本院議で、徳仁の即位に祝意を示す「賀詞」を全会一致で議決。共産党が出席して賛成。

【5月10日】

皇位継承儀式◆徳仁の使い「勅使」が、伊勢神宮（三重県伊勢市）を訪れ、徳仁からの奉納品を納める「奉幣の儀」に臨む。即位記念貨幣◆財務省が、徳仁即位の記念貨幣を発行すると発表。

【5月11日】

天皇、皇族◆徳仁、雅子と愛子が皇居・吹上仙洞御所を訪れ、代替わり後初めて明仁、美智子と共に夕食。

眞子◆東京都千代田区のホールで、「森と花の祭典「みどりの感謝祭」」の式典に出席。

【5月13日】

紀子、佳子◆東京都港区のグランドハイアット東京を訪問。

大嘗祭◆徳仁の皇位継承に伴う「大嘗祭」で使うコメの産地を占う「斎田点定の儀」が、皇居・宮中三殿で行われる。

【5月14日】

徳仁◆徳仁が、皇居・宮殿「鳳凰の間」で、安倍晋三首相から「内奏」を受ける。

【5月15日】

雅子◆日本赤十字社の名誉総裁に就任。

即位賀詞◆参院の本院議で、徳仁の即位に祝意を示す「賀詞」を全会一致で議決。共産党が出席して賛成。

【5月16日】

徳仁◆新任の駐日外国大使の「信任状奉呈式」。

【5月18日】

秋篠宮、紀子◆鳥取市の県立布勢総合運動公園で第30回全国「みどりの愛護」のつどいの式典に出席。

【5月20日】

明仁◆東京・上野の国立科学博物館を訪問。

【5月21日】

徳仁◆皇居内の水田で田植え。

【5月21日】

秋篠宮、紀子、眞子、佳子◆日本とハンガリーの外交関係樹立150周年を記念した公演鑑賞。

【5月22日】

代替わり◆政府が、「祝賀御列の儀」について、前回のルートを一部変更する。

【5月23日】

女性皇族◆雅子が東京都渋谷区の明治神宮会館を訪れ、全国赤十字大会に出席。

徳仁◆皇居・宮殿で開かれた「春の叙勲」のうち、大綬章の親授式に出席し、桐花大綬章の寺田逸郎・前最高裁判長官ら12人に勲章を手渡す。

【5月23日】

秋篠宮◆東北大植物園を視察後、日本植物園協会の第54回大会開会式に出席。

眞子◆長野県松本市の松本平広域公園を訪れ、全国都市緑化祭の式典に出席。

【5月24日】

明仁、美智子◆東京オペラシティコンサートホールでマルタ・アルゲリッチの公演を鑑賞。

【5月27日】

天皇、皇族◆トランプ米大統領夫妻を歓迎する徳仁、雅子「主催」の宮中晩さん会が、皇居・宮殿の「豊明殿」で開かれる。徳仁が晩さん会冒頭、あいさつ。

「戦没者」慰霊式◆第2次大戦中に海外などで死亡した身元不明の戦没者を慰霊する厚生労働省主催の拝礼式が、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で開かれ、眞子が参列。

【5月28日】

徳仁、雅子◆徳トランプ米大統領夫妻に別れのあいさつをするため、宿泊先のホテルを訪問。

秋篠宮、紀子◆秋篠宮が総裁として日本動物園水族館協会の通常総会に出席。

代替わり◆政府、皇位継承に伴う儀式の詳細を検討する「式典委員会」が21日に開いた第5回会合の議事概要を公表。

【5月29日】

秋篠宮◆名古屋港水族館を視察。

明仁、美智子◆川崎市の児童殺傷事件で犠牲になった外務省職員の妻に対し、外務省事務次官を通じて弔意を伝えた。

美空の「暴行」

南京大虐殺・靖国に抗議した香港人弾圧を許すな

五月九日、後樂園・文京シビックセンターで、12・12靖国神社抗議見せしめ弾圧を許さない会による、「南京大虐殺・靖国に抗議した香港人弾圧を許すな」集会が行われた。

昨年一月二二日、靖国神社の外苑で横断幕を上げて抗議した郭紹傑（グオ・シウギ）さんと、それを撮影していた嚴敏華（イン・マンワ）さんが、「建造物侵入」で逮捕・起訴され、半年以上も拘留されている。そのことの不当性に抗議し、彼らの行動の意味を考えていこうという趣旨の集会である。

集会は、まず「村山首相談話の会」の藤田高景さんが、安倍首相の「歴史認識」と、それを付度した裁判所の姿勢が、不当な長期拘留を招いていると批判。続いて一橋大学名誉教授の田中宏さんが「追及される日本の中国侵略責任」と題して講演した。日本人とアジア人の歴史認識のギャップとワイツゼッカー演説、サンフランシスコ講和条約による戦後処理のあり方、植民地主義と在日朝鮮人差別などについて、わかりやすく講演した。そして、ジャーナリストの和仁廉夫さんが、パワーポイントを使い、日本軍による香港軍政などの歴史を振り返りながら、香

港人が靖国で抗議したことの背景を説明した。

最後に、当日接見した長谷川直彦弁護士による、被告人からのアピールの紹介、一瀬敬一郎弁護士の裁判報告があった。

今回の第四回公判期日は、六月二一日（金）午前一〇時（傍聴抽選締め切りは九時半）、四一九号法廷。靖国神社権欄宜に対する検察側尋問などが行われる予定。毎回右翼の傍聴職員もあり、救援会から傍聴支援の呼びかけがなされた。参加者七五名。（北野蒼）

何が問題？ 植樹祭 新天皇初の公的行為

六月二日、新天皇夫妻が出席して愛知県尾張旭市の森林公園で行われる、第七〇回全国植樹祭を前に、五月二二日「何が問題？ 植樹祭 新天皇初の公的行為」と題して、反天皇制運動連絡会の、天野恵一さんを講師に学習会を行った。

初と銘打ったが、トランプとの会談が初行事という指摘があった。天野さんからは、首都圏での代替わりの連続行動の報告と、一九五〇年に第一回国土緑化大会（一九六〇年から全国植樹祭に改名）に天皇が出席して行われたのを皮切りに、全国豊かな海づくり大会、国体と天皇行事の報告があった。これらの行事は巨額の予算を使い、国家の威信を高めるために行われるものであると。そして、天皇は憲法で「国事行為」のみを行うとされて

いるが、公的行事が拡大をしてきた。公的行為はそもそも違憲で、その仕上げが二〇一六年八月の退位をにおわせる天皇メッセージだ。また、公的行為である国会の開会式での天皇の「お言葉」に対して、日本共産党は憲法に違反すると出席をしないが二〇一六年から出席するようになった。これで国会の中で反対する勢力はいなくなった。公的行為という憲法外の天皇行為が今や堂々と憲法の中に入り込んできたという指摘は、まさにその通りだと思う。そして何よりも、私たちと同じ人間を象徴として崇め、特別扱いをする天皇制そのものの批判を強めて行かなければと思う。この日

集会開始から右翼の街宣車が会場周辺を大音量で徘徊し集会妨害を行った。植樹祭当日も、異議ありの街宣を行う予定にしている。細やかではあるが、日本社会の根本矛盾である天皇制に対して声をあげていきたい。（代替わりを機に天皇制を考えるあいち ネットワーク）

第32回政教分離全国交流集会

靖国参拝、靖国合祀、即位大嘗祭など、靖国神社や天皇制による基本的人権への侵害や政教分離をはじめとする違憲行為を問う訴訟が、これまで各地で取り組まれてきた。その経験を交流させようと呼びかけられた全国集会も、今回で三回となる。

五月二四日に、東京早稲田の日本キリ

スト教会館で持たれた集会では、まず「記念講演」として、中嶋啓明さん（人権と報道・連絡会）から、「代替わりとマスコミ報道」と題して、前回の代替わり、そして今回の代替わり報道を素材に、メディアによる天皇制礼賛の「報道」がつくり出される現状の問題性を、取材体制に組み込まれた体験から、とても具体的に話された。当時のメディア労組の内部通信での具体的なやり取りに示されたような問題意識がすでに現在に絶たれ、政府や皇室情報部のべったりとした垂れ流しが、新天皇賛美の「大衆意識」を構成しているのだ。

質疑の後、続いて、今回の即位大嘗祭違憲訴訟の弁護団を代表して、酒田芳人弁護士から報告。この訴訟は、ほんらい公費支出への差止訴訟十国賠訴訟を一体のものとして提訴されていたのだが、昨年の提訴直後に裁判所がこれを強制的に分離させ、かつ、今年二月に「差止訴訟について却下」の判決、さらに四月には控訴棄却の不当判決が出されている。今後は、これへの上告審と、「国賠訴訟」についての弁論が続く。皇室による祭祀の問題と「国事行為」の内実を問う内容を、今後は展開していくことになる。

さらに、安倍参拝の違憲を問う靖国訴訟（昨年の控訴打ち切りと棄却に続き現在上告審へ）の現状についての報告、また、朝鮮人の軍人・軍属を強制的に靖国神社に合祀し、分配を認めようとし、靖国神社や日本国の責任を問う「ノー！ハブサ（合祀）訴訟」についての報告がなさ

れた（ノー・ハブサ裁判は、五月二八日に一審敗訴、控訴審へ）。

五月二五日は、北海道、関西、島根、広島、山口、九州、沖縄など各地からの参加者による報告があり、来年の全国集会を北海道で六月一九日・二〇日に実施することが確認された。今回は、NCCの平和資料館やWAM女たちの戦争と平和資料館見学なども組み込まれ、とても内容豊かな集会だった。（蝙蝠）

5・26、新天皇・トランプ会談 反対新宿デモ

五月二五日、米大統領トランプが来日した。都心部は警察・機動隊が二五〇〇人という厳戒状態。そのような中、反天連も参加しているおわてんねつとは、天皇・トランプ会談前日の二七日、

「新天皇・トランプ会談反対」5・26新宿デモを行った。

アルタ前集合、アピール行動をやってデモ出発。4・30（明仁退位の日）のアルタ前行動の記憶も鮮明ななか、楽しく盛り上がるはずだった。もちろん、最終的には盛り上がったのだが、この日はタービー中継をアルタビジョンが映し出し、一帯がそのためのイベント会場となっているとか、この日は祭があつてみこしが行き交うのでデモコース短縮だとか、小さな予定変更を余儀なくされていた。しかも、予想はしていたものの、右翼による妨害とそれを口実とする警察の過度な警備。アルタ前広場の片隅に警察に囲まれる形でなんとか横断幕を掲げるといふ情けない事態に。でも、そこからみんなで広場の中央に移動してシュプレヒコール。その後歩道に移動。

学習会報告

井上寛司『「神道」の虚像と実像』

（講談社現代新書、二〇一一年）

「神道」には二系統あると著者は言う。すなわち、近代には「国家神道」へと結実してゆくことになる民衆統治のための政治支配思想としての「神道」と、アニミズムが根柢にあるカミ祭りの体系という「融通無碍な多神教」を構成する有機的な一部としての「神道（ないしは神祇道）」である。著者の狙

いは「神道」の歴史を通覧することで「国家神道」に至る「神道」の系統を別括し、同時に民衆が営んできた信仰の一部としての「神道」は救い出すというものである。そして、その二重構造から解放された現在の「神道」が進むべき道は、「融通無碍な多神教を構成するその有機的な一部としてのあ

ひどい条件下の始まりだったけど、参加者とともに少しずつ場所を確保し、押し拡げていった。そして、予定していた主催者挨拶、前日行われた「トランプ来日・天皇会談反対」集会&デモ主催者からのアピールと、おっちゃんずの「天皇制はいらないよ」の歌で空気を一杯に吸い込み、元気にデモ出発。

街頭で出くわす右翼の街宣車はトランプ歓迎を叫び、米国の国歌を大音響で流していた。親米ナショナリズムの歴史も長い。それは日米軍事同盟の歴史でもある。右翼を揶揄し笑っている場合ではないとマジで思いつつ、風に煽られながら歩いた。翌日、親天皇夫妻は満面の笑みでトランプを迎えていた。「やっぱりか」という話だが、ゲッソリ。（大子）

りかたに徹する」ことであるというのが、著者の主張だ。かかる前提の上に、その二系統が織りなす歴史を動態的に描きながら、柳田國男のように神道を「日本固有の宗教」として超歴史的に捉えることを批判してゆくのが、この本である。

学習会では「神道」を二系統に分けるといふその明快さに対して、各時代の支配階級による作為の体系としての「神道」については歴史的な視点を持っているものの、民衆の信仰は常に「融通無碍な多神教」であった、という著

5月8日（水）●即位・大嘗祭違憲訴訟第2回口頭弁論

5月9日（木）●南京大虐殺・靖国に抗議した香港人弾圧を許すな！（集会の真相参照）

5月21日（火）●なにが問題？植樹祭 新天皇の初の「公的行為」（集会の真相参照）

5月22日（水）●香港人靖国抗議見せしめ弾圧第3回公判

5月24日（金）●第32回政教分離訴訟全国交流集会（集会の真相参照）

5月25日（土）●オリンピックと放射能「復興五輪」という欺瞞

5月26日（日）●新天皇・トランプ会談反対新宿デモ（集会の真相参照）

5月27日（月）●学習会・外国人労働者と被ばく労働

者の整理は超歴史的ではないのか、とか、民衆の信仰は近代には天皇崇拜へと回収されていたのであって「国家神道」下にただ抑圧されていただけではない、とか、著者の「神道」には天皇祭祀＝皇室神道という要素が閑却されているがゆえに、戦後の問題点を捉えきれない、といったことなどが議論された。

次回は六月二五日に大塚英志『感情天皇論』を読む。（羽黒仁史）

集合情報 INFORMATION

6月1日(土) ●「言論の自由」とは何か？
天皇制賛美と天皇(制) タブー

3月1日(金) ●開催中●朝鮮人「慰安婦」の声をきく

13時〜18時(月・火・休日休館) / WAM 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅) / 主催: 同館

6月8日(土) ●朝鮮半島と日本に非核・平和の確立を! シンポジウム

13時開場 / 星陵会館(地下鉄永田町駅ほか) / 要事前申込み (mail: kenpou@amie.ne.jp) / 主催: 同実行委員会

●ビッグデータがもたらす監視社会

14時〜 集会後デモ / つくば市春日交流センター大会議室(TXつくば駅よりバス) / 小倉利丸 / 主催: 戦時下の現在を考える講座(090-8441-1457 加藤)

●ヘイトって何? 何をねらっているの?

18時30分 / Cocorin c.u. 区民・産業プラザ研修室(西武池袋線ほか練馬駅) / 安田浩一 / 主催: ヘイトをさせない! 許さない! 練馬の集い実行委員会ほか (notate.neima@gmail.com)

6月9日(日) ●練馬駐屯地抗議デモ

13時集合・14時デモ出発 / 徳丸第二公園(東上線東武練馬駅) / 主催: 反安保・反自衛隊・反基地を闘う北部実行委員会ほか (03-3961-0212)

6月11日(火) ●明治公園オリンピック追い出しを許さない国賠訴訟第5回口頭弁論

11時30分 / 東京地方裁判所706号

法廷(地下鉄霞ヶ関駅ほか)

●茨城国体を問う連続学習会「国民体育大会の研究」を読む

19時〜 / つくば市立吾妻交流センター和室(TXつくば駅) / 主催: 戦時下の現在を考える講座(090-8441-1457 加藤)

6月14日(金) ●「女性宮家」「女系・女性天皇」論議をどう考える!? 誰がなっても天皇制はイヤ! じゃないですか?

18時〜 / 齊藤小百合 / 文京区民センター13C / 主催: 女性と天皇制研究会(jotenken@yahoo.co.jp)

6月15日(土) ●なぜ私たちはパラリンピックに反対するのか

18時30分 / 大田区消費者生活センター(JR蒲田駅) / 北村小夜・谷口源太郎 / 主催: 「オリンピック災害」おことわり連絡会 (info@2020kotowa.link)

6月16日(日) ●日韓諸条約の成立過程: 置き去りにされた課題は何か

14時〜 / WAM 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅) / 吉澤文寿 / 主催: 同館

6月21日(火) ●香港人靖国抗議見せしめ弾圧第4回公判

10時〜(傍聴締め切り9時30分) / 東京地方裁判所429号法廷(地下鉄霞ヶ関駅ほか)

●2019ヤスクニキャンドル行動事前学習会第3回「琉球処分」から140年

18時30分 / 在日本韓国YMCA・3F(JR水道橋駅ほか) / 上村英明 /

主催: キャンドル行動実行委員会平和の灯を! ヤスクニの闇へ(03-3355-2841)

6月22日(土) ●部落差別と天皇制

18時15分開場 / 練馬区立厚生文化会館地下大会議室(西武池袋線ほか練馬駅) / 友常勉 / 主催: アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会(連絡先: 090-5208-5803 池田)

6月23日(日) ●「天皇・天皇制」を問う

14時〜 / 天満国労会館(JR天満駅) / 天野恵一 / 主催: 郵政共に闘う会

6月26日(水) ●即位・大嘗祭違憲訴訟第3回口頭弁論

14時30分開廷 / 東京地方裁判所429号法廷(地下鉄霞ヶ関駅ほか)

7月6日(土) ●宇宙に広がる南西諸島の軍備強化

13時15分開場 / スペースたんぼ(JRほか飯田橋駅) / 前田佐和子 / 主催: 大軍拡と基地強化にNO! アクシオン2019

7月7日(日) ●朝鮮女性の闘いにつらなる

14時〜 / WAM 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅) / 山口明子 / 主催: 同館

7月14日(日) ●議会を浸食する差別主義・レイシズムを許すな!

17時45分 / 文京区民センター2A(地下鉄春日駅ほか) / 明戸隆浩・石橋学 / 主催: 差別・排外主義に反対する連絡会 (iteiyo@gmail.com)

7月15日(月・休) ●徹底検証! ナルヒト天皇制

13時15分開場 / 文京区民センター2A(地下鉄春日駅ほか) / 主催: 終わりにしよう天皇制! 「代替わり」反対ネットワーク (090-3438-0263)

●神奈川の「上領軍慰安所」

13時30分 / 横浜開港記念会館2F9号室(JR関内駅ほか) / いのうえつこ / 主催: 日本基督教団神奈川教区性差別問題特別委員会、基地・自衛隊問題小委員会(連絡先: 090-6703-1360 池田)

7月21日(日) ●第9回「日の丸・君が代」問題等全国学習・交流集会

10時30分 / 日比谷図書文化館コンベンションホール(地下鉄霞ヶ関駅ほか) / 世取山洋介 / 主催: 同実行委(連絡先: 090-7015-3344 永井)

7月24日(水) ●1年前でもやっぱり返上! オリンピック大炎上新宿デモ

18時〜 / アピール・19時デモ出発 / 新宿アルタ前(JRほか新宿駅) / 世取山洋介 / 主催: 「オリンピック災害」おことわり連絡会 (info@2020kotowa.link)

●メディア汚染度チェック。天皇・皇后という言葉に誰を思い浮かべた? (木苑)

●明仁美智子が徳仁雅子か、除染作業をしてもダメなのは放射能とおなじ(蝙蝠)

●目に見えない恐ろしい放射能。天皇制の恐ろしさを可視化しなくっちゃ! (鰐)

●天皇制はすべての人にとって怖いものじゃないところが違うよね。(猯)

